

〔原著〕

## 看護専門学校に所属する教員の学位取得ニードに関する研究

—教員が希望する学位の学問領域とその決定理由—

舟島なをみ\* 亀岡智美\* 定廣和香子\* 廣田登志子\*\*

A Study of Diploma Program Nurse Teachers Needs for Obtaining a Baccalaureate Degree  
—a field of discipline in a baccalaureate degree and the reasons for choosing it by the diploma  
program nurse teachers who have needs for obtaining the degree—

Naomi FUNASHIMA\* Tomomi KAMEOKA\* Wakako SADAHIRO\* Toshiko HIROTA\*\*

## 要旨

本研究の目的は、看護専門学校に所属する学位取得ニードを持つ教員を対象とし、学位取得を希望する学問領域とその決定理由を明らかにすることである。データ収集においては、看護専門学校に所属する教員2,546名に郵送法により質問紙を配布し、1,278名(回収率50.2%)から回答を得た。これらの回答のうち、学位取得ニードを持つ309名の教員の回答を分析した結果、次の3点が明らかになった。(1)学位取得ニードを持つ教員309名のうち、65名(21.0%)が看護学、105名(34.0%)が看護学以外の学問、138名(44.7%)が可能であれば看護学を希望するが実際には他学問の学位取得を希望していた。(2)学位取得を希望する学問領域を決定する理由に対する教員の回答を内容分析の手法を用いて分析した結果、18カテゴリが形成された。(3)学問領域を決定する理由のうち最も多かったのは、看護学を希望する者が【看護学への関心、看護学に関する専門性の追求】、他学問を希望する者が【幅広い知識の修得と視野の拡大、看護職以外の人との学術的交流】、可能であれば看護学を希望するが実際には他学問を希望する者が【職業継続、家庭生活の維持、通学の可否】であった。

Key Words : 学位取得ニード, 看護専門学校に所属する教員

## I. はじめに

看護職の専門職化を推進するためには、看護学教育の高等教育化に加え、すでに看護専門学校を卒業し学位取得を希望する看護職に対する取得機会の拡大が必要である。

筆者らは、看護職の学位取得支援を目指し、1996年より一連の研究<sup>1)</sup>を実施してきた。その結果、学位取得ニードを持つ者の割合は、看護婦・士、保健婦・士、助産婦と比較して、看護学教員が最も高いことが明らかになった。そこで、看護専門学校に所属する教員に焦点を当て、学位取得ニードに関する実態を調査した結果、看護専門学校に所属する教員の約60%が学位取得ニードを持ち、そのうち80%以上が、看護学以外の学問(以下、他学問とする)の学位取得を希望していることが明らかになった<sup>2)</sup>。また、結果に対する考察は、他学問分野における学習を希

望する教員の中に、本来は、看護学を希望しているが、何らかの理由により取得を断念している者が存在する可能性を示唆した。

学位取得を希望する教員の学問領域決定理由は、これまで研究的に解明されておらず、その解明は、教員が大学における学習機会を獲得するために必要な制度の整備・拡充に貢献する。

そこで、以下の目的を設定し、本研究を実施した。

## II. 研究目的

看護専門学校に所属する学位取得ニードを持つ教員を対象とし、学位取得を希望する学問領域とその決定理由を明らかにする。

## III. 用語の概念規定

1. 看護専門学校：看護専門学校とは、看護婦学校養成所<sup>3)</sup>のうち、専門課程を置く専修学校<sup>4)</sup>である。
2. 学位取得ニード：学位とは、大学等において一定の学修を行った者<sup>5)</sup>、または、学術研究上において一定の業績ないしは能力のある者に対して、国家または教育機関が授与する称号<sup>6)</sup>であり、学士、修

\* 千葉大学看護学部看護教育学教育研究分野  
Department of Nursing Education, School of  
Nursing, Chiba University

\*\* 千葉大学大学院看護学研究科  
Doctoral Program in Nursing, Chiba University

士、博士の3種類がある。本研究においては、学位取得ニーズを「学士の学位を取得していない者が学士の学位を取得する意志」と規定する。

#### IV. 研究方法

1. 測定用具：学位取得を希望する学問領域及び個人特性を問う選択回答式質問，学問領域を決定する理由を問う自由回答式質問からなる質問紙を用いた。自由回答式質問の回答可能な文字数は、50～70字程度であった。質問紙の内容的妥当性は、専門家会議及びパイロットスタディの実施により検討した。

2. データ収集：全国の3年課程看護専門学校503校の教育管理責任者に研究協力を依頼し、承諾の得られた305校に所属する教員2546名に郵送法により質問紙を配布した。回収は、個々の教員が任意に投函する方法を用いて行った。調査期間は、1999年9月13日から9月30日であった。

3. データ分析：ベレルソンの内容分析<sup>7)</sup>の手法を用いた。記録単位は、学位取得を希望する学問領域を決定する理由1内容を含む文章とし、文脈単位は、1対象者による1回答とした。文脈単位から記録単位を抽出し、その意味内容の類似性に基づいてカテゴリ化を行い、カテゴリ毎に記録単位数を算出した。

4. 本研究の信頼性：看護学修士を持つ2名の研究者によるカテゴリ分類の一致率をスコットの式<sup>8)</sup>に基づき算出し検討した。

#### V. 結果

質問紙に回答した1278名(回収率50.2%)の教員の学位取得状況は、既に取得している者が195名(15.3%)、現在取得中の者が347名(27.2%)、取得していない者が679名(53.1%)、不明57名(4.4%)であった。また、取得していない教員679名のうち、学位取得ニーズを持つ者は309名(45.4%)であり、この309名の回答を分析対象とした。

##### 1. 対象者の特性

学位取得ニーズを持つ教員の年齢は28歳から54歳の範囲であり、平均37.9歳(SD5.2)であった。性別は、女性306名(99.0%)、男性3名(1.0%)であった。教員経験年数は1年から24年の範囲であり、平均6.0年(SD4.5)であった。

##### 2. 学位取得を希望する学問領域

可能であれば看護学の学位取得を希望するが実際には他学問を希望する者(以下、「看護学、実際には他学問」希望群とする)は44.7%、他学問の学位取

得を希望する者(以下、「他学問」希望群とする)は34.0%、看護学の学位取得を希望する者(以下、「看護学」希望群とする)は21.0%であった(図)。

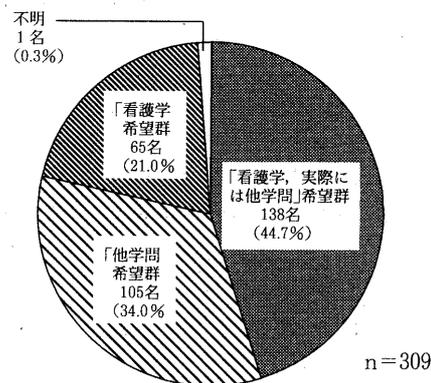


図 学位取得を希望する学問領域

##### 3. 分析対象とした記録単位数

309名のうち、239名が学位取得を希望する学問領域を決定する理由を問う自由回答式質問に回答した。その回答内容は330記録単位、239文脈単位に分割できた。これらのうち学問領域を決定する理由が明確に記述されている285記録単位を分析した。

##### 4. 教員の記述内容が形成したカテゴリ(次頁表)

教員が学位取得を希望する学問領域を決定する理由として、次の18カテゴリが形成された。以下、カテゴリを形成した記録単位が多い順に示す(〈〉内は、記録単位数)。

【1.幅広い知識の修得と視野の拡大、看護職以外の人との学術的交流】〈51:17.9%〉

カテゴリ1は、幅広い知識・教養を身につけたい〈35〉、視野を広げたい〈12〉、看護職以外の人と勉強したい〈1〉等の記述から形成された。

【2.職業継続、家庭生活の維持、通学の可否】

〈45:15.8%〉

カテゴリ2は、自宅から通学可能な看護系大学が少ない・ない〈18〉、勤務しながら看護学の学士取得は困難である〈16〉、家庭生活と看護学の学士取得の両立は困難である〈6〉等の記述から形成された。

【3.看護学以外の学問への関心・学習欲求】

〈37:13.0%〉

カテゴリ3は、看護学以外の学問に関心・興味がある〈20〉、看護学以外の学問領域を学習したい〈17〉という記述から形成された。

【4.教授活動・看護実践に活用可能な知識の獲得】

〈26:9.1%〉

カテゴリ4は、専門的知識を修得し教授活動に活かしたい〈13〉、教授活動における知識不足を感じ

表 学位取得を希望する学問領域を決定する理由

カテゴリー	記録単位数(%)	「看護学」希望群	「他学問」希望群	「看護学、実際には他学問」希望群
1.幅広い知識の修得と視野の拡大, 看護職以外の人との学術的交流	51 ( 17.9)	-	40 ( 38.9)	11 ( 8.5)
2.職業継続, 家庭生活の維持, 通学の可否	45 ( 15.8)	-	3 ( 2.9)	42 ( 32.3)
3.看護学以外の学問への関心・学習欲求	37 ( 13.0)	-	23 ( 22.3)	14 ( 10.8)
4.教授活動・看護実践に活用可能な知識の獲得	26 ( 9.1)	18 ( 34.6)	2 ( 1.9)	6 ( 4.6)
5.自信獲得, 自己成長, 継続学習の機会獲得	23 ( 8.1)	10 ( 19.2)	4 ( 3.9)	9 ( 6.9)
6.看護学への関心, 看護学に関する専門性の追究	19 ( 6.1)	19 ( 36.6)	-	-
7.看護系大学及び社会人特別選抜実施の看護系大学の絶対数の過少, 看護系大学への入学・単位修得の困難	16 ( 5.6)	-	3 ( 2.9)	13 ( 10.0)
8.放送・通信・定時制(夜間制)教育による学士取得の可否, 編入学制度活用可否	15 ( 5.3)	1 ( 1.9)	3 ( 2.9)	11 ( 8.5)
9.看護学以外の学問領域の学習による看護の理解深化	14 ( 4.9)	-	8 ( 7.8)	6 ( 4.6)
10.人間・社会の理解	14 ( 4.9)	-	10 ( 9.7)	4 ( 3.1)
11.看護観の再考・確立	5 ( 1.7)	1 ( 1.9)	3 ( 2.9)	1 ( 0.8)
12.高等教育化進展による学士未取得のままの職業継続困難の予測	5 ( 1.7)	-	-	5 ( 3.8)
13.大卒学生の入学増加に伴う学士取得に対する焦りの知覚	4 ( 1.4)	1 ( 1.9)	1 ( 1.0)	2 ( 1.5)
14.看護学における既習学習内容との重複回避	4 ( 1.4)	-	2 ( 1.0)	2 ( 1.5)
15.看護学発展への貢献, 専門職としての責務遂行	2 ( 0.7)	2 ( 3.9)	-	-
16.看護職以外の自己の夢実現	2 ( 0.7)	-	1 ( 1.0)	1 ( 0.8)
17.看護学の学士取得方法に対する知識不足	2 ( 0.7)	-	-	2 ( 1.5)
18.他の医療従事者との対等な立場の確立	1 ( 0.4)	-	-	1 ( 0.8)
合計	285 (100.0)	52 (100.0)	103 (100.0)	130 (100.0)

\*カテゴリーは、記録単位数の多い順に配列した。

る〈8〉、知識・技術を高め看護実践に活用したい〈3〉等の記述から形成された。

**【5.自信獲得, 自己成長, 継続学習の機会獲得】**

〈23:8.1%〉

カテゴリ5は、自分を成長させたい〈12〉、人間性を豊かにしたい〈4〉、学び続ける機会としたい〈4〉、自分に自信を持ちたい〈3〉という記述から形成された。

**【6.看護学への関心, 看護学に関する専門性の追究】**

〈19:6.7%〉

カテゴリ6は、看護学の専門的知識を修得したい〈12〉、看護の専門性を高めたい〈3〉等の記述から形成された。

**【7.看護系大学及び社会人特別選抜実施の看護系大学の絶対数の過少, 看護系大学への入学・単位修得の困難】**

〈16:5.6%〉

カテゴリ7は、看護系大学における単位修得は困難である〈5〉、看護系大学への入学は無理である〈4〉、看護系大学の数が少ない〈3〉、社会人特別選抜を実施している看護系大学の数が少ない〈1〉等の記述から形成された。

**【8.放送・通信・定時制(夜間制)教育による学士取得**

**の可否, 編入学制度活用可否】〈15:5.3%〉**

カテゴリ8は、通信教育による看護学士の取得は不可能である〈11〉、編入学制度を利用できる・できない〈2〉、放送大学であれば学士取得が可能だから〈1〉、定時制(夜間制)教育を実施している看護系大学はない〈1〉という記述から形成された。

**【9.看護学以外の学問領域の学習による看護の理解深化】〈14:4.9%〉**

カテゴリ9は、看護学以外の学問領域の学習により、広い視野から看護を考える〈11〉、看護学以外の学問領域の学習により、看護に対する理解を深める〈3〉という記述から形成された。

**【10.人間・社会の理解】〈14:4.9%〉**

カテゴリ10は看護の対象である人間の理解を深めたい〈11〉、人間を取り巻く社会や環境について学習したい〈3〉という記述から形成された。

**【11.看護観の再考・確立】〈5:1.7%〉**

カテゴリ11は、看護について再度考えてみたい〈3〉、看護の体験を自分の中で明確にする〈1〉等の記述から形成された。

**【12.高等教育化進展による学士未取得のままの職業継続困難の予測】〈5:1.7%〉**

カテゴリ12は、将来、専門学校が廃校になった時、教員を継続するためには大卒でないと難しい〈1〉、短期大学での教育活動を希望するため〈1〉、看護系大学の増加に伴い学士取得の必要性を感じる〈1〉等の記述から形成された。

**【13.大卒学生の入学増加に伴う学士取得に対する焦りの知覚】** 〈4:1.4%〉

カテゴリ13は、学士を取得している学生が多くなり、学生の方が多くを知っている〈2〉、大卒学生に対してコンプレックスを感じる〈1〉、大卒学生が増加し、大学教育のあり方について知りたい〈1〉という記述から形成された。

**【14.看護学における既習学習内容との重複回避】**

〈4:1.4%〉

カテゴリ14は看護学は看護基礎教育課程において十分学習できている〈2〉、看護学は、看護基礎教育課程修了後も独自で学習し続けている〈2〉という記述から形成された。

**【15.看護学発展への貢献、専門職としての責務遂行】**

〈2:0.7%〉

カテゴリ15は、看護学発展への一助となりたい〈1〉、今のままでは専門職として十分でない〈1〉という記述から形成された。

**【16.看護職以外の自己の夢実現】** 〈2:0.7%〉

カテゴリ16は、看護の経験を活かして執筆活動をしたい〈1〉、絵本作家になるのが夢だから〈1〉という記述から形成された。

**【17.看護学の学士取得方法に対する知識不足】**

〈2:0.7%〉

カテゴリ17は、看護学の学士取得の方法を知らない〈2〉という記述から形成された。

**【18.他の医療従事者との対等な立場の確立】**

〈1:0.4%〉

カテゴリ18は、他の医療従事者と対等な立場に立つため〈1〉という記述から形成された。

**5. カテゴリの信頼性**

スコットの式により算出したカテゴリへの分類の一致率は、74.7%と70.8%であった。

**6. 各学問領域における決定理由 (表)**

「看護学」希望群：【6.看護学への関心、看護学に関する専門性の追究】(36.6%)が最も多く、次いで【4.教授活動・看護実践に活用可能な知識の獲得】(34.6%)、【5.自信獲得、自己成長、継続学習の機会獲得】(19.2%)であった。

「他学問」希望群：【1.幅広い知識の修得と視野

の拡大、看護職以外の人との学術的交流】(38.9%)が最も多く、ついで【3.看護学以外の学問への関心・学習欲求】(22.3%)、【10.人間・社会の理解】(9.7%)であった。

「看護学、実際には他学問」希望群：【2.職業継続、家庭生活の維持、通学の可否】(32.3%)が最も多く、ついで【3.看護学以外の学問への関心・学習欲求】(10.8%)、【7.看護系大学及び社会人特別選抜実施の看護系大学の絶対数の過少、看護系大学への入学・単位修得の困難】(10.0%)であった。

**VI. 考察**

2名の研究者によるカテゴリ分類の一致率は、共に70%以上であり、研究結果が信頼性を確保していることを示した。

本研究の結果は、学位取得ニーズを持つ看護専門学校教員のうち、実際に看護学の学位取得を希望する者が約20%、他学問の学位取得を希望する者が約80%を占めることを明らかにした。しかし、他学問の学位取得を希望する教員のうち半数以上(教員全体の約45%)は、可能であれば看護学の学位を取得したいとしていた。

このことは、学位取得ニーズを持つ教員の約65%が、看護学の学位を第一希望としている一方、その多くが、実際には何らかの理由で取得を断念し、他学問の学位取得を希望することを示す。すなわち、本研究結果は、前回の調査結果<sup>9)</sup>が示唆した看護学の学位取得を断念する教員の存在を裏付けた。

そこで、次に、これら看護学の学位取得を希望しながらも実際には、他学問の学位取得を目指している教員の希望理由を検討する。

「看護学実際には他学問」希望群は、【職業継続、家庭生活の維持、通学の可否】を第1の理由とし、他学問の学位を希望していた。さらに、【看護系大学の絶対数の過少、社会人特別選抜実施の有無、看護系大学への入学・単位修得の困難】や【放送・通信・定時制(夜間制)教育による学位取得の可否・編入学制度活用の可否】といった看護系大学の選抜制度や単位認定方法に関わる内容も、他学問を選択する理由として挙げていた。米国における研究成果は、看護職者が看護学の学位を取得するための最も大きな障害が「大学までの距離」であることを明らかにした<sup>10)</sup>。また、わが国における研究成果は、既に学位を取得した看護職者のうち、94.3%が看護系以外の大学において学位を取得し、その大学選択の

条件が「退職せずに就学できる」「社会人にとって通学しやすい」「地理的に近い」などであったことを示した<sup>11)</sup>。本研究結果のうち第1の理由はこれらと合致しており、看護専門学校に所属する教員が、看護職全体と同様に学位を取得する際に職業継続の可否を重要視していることを示す。すなわち、教員の学位取得ニーズを充足するためには、看護系大学における学位取得に関し、入学定員数や選抜方法を見直すとともに、教員の職業継続に配慮した教育制度や方法を検討・整備する必要がある。

米国においては、看護職者が就業しながら、看護学の学位を取得するための方法として、遠隔教育<sup>12)</sup>、特別な教育課程の提供<sup>13)</sup>などを実施している。また、わが国においても、インターネットの普及を背景とし、各看護系大学における放送・通信教育導入が模索されはじめている<sup>14)</sup>。しかし、看護学は実践の科学であり、看護学の学位は、学術的知識に裏付けられた専門職的実践能力の修得<sup>15)</sup>を前提として授与される。このことは、放送、通信教育などの方法のみにより、学習者が看護学の学位授与に値する学習成果を獲得することは困難であることを意味する。看護系大学が、教員の学位取得ニーズに対応するためには、まず第一に、職業継続を前提とした独自の教育課程を編成する必要がある。また、放送・通信教育などは、他の方法と併用して活用することが有効である。さらに、教員が第一希望通りに看護学の学位を取得するためには、大学側と所属する教育機関である看護専門学校が協同し、学位取得に取り組む者の職業継続を保証する環境を整えることも重要である。

## VII. 結 論

1. 看護専門学校に所属する学位取得ニーズを持つ教員のうち、可能であれば看護学の学位取得を希望するが実際には他学問を希望する者は44.7%、他学問の学位取得を希望する者は34.0%、看護学の学位取得を希望する者は21.0%であった。
2. 学位取得ニーズを持つ教員が学位取得を希望する学問領域を決定する理由を示す18カテゴリが形成された。
3. 看護学が第1希望であるが、実際には他学問を希望する教員の多くは、【職業継続、家庭生活の維持、通学の可否】を理由に他学問の学位取得を希望している。教員の看護学の学位取得支援に向けて、職業継続を前提とした教育課程の編成や様々な教育方法

の活用を検討していく必要がある。

## VIII. おわりに

本研究の結果、看護専門学校に所属し、学位取得ニーズを持つ教員の学位取得を希望する学問領域とその決定理由が明らかとなった。看護婦・士に関するデータを加え、決定理由を示す18カテゴリを更に洗練させていくことは、今後の課題である。

## 引用文献

1)以下の研究がある。

- ・舟島なをみ、杉森みど里：専門学校を卒業した看護婦(士)の学位取得に関する研究－学位取得へのニーズの有無に焦点を当てて－, *Quality Nursing*, 3(7), 57-63, 1996.
  - ・山田あゆみ、横山京子、舟島なをみ：看護婦(士)の学位取得ニーズとケアの自己評価に関する研究－専門学校卒業者に焦点を当てて－, *日本看護学会誌*, 8(2), 96, 1998.
  - ・横山京子、杉森みど里：看護婦(士)の専門職的自律性と学位取得ニーズに関する研究－専門学校卒業者に焦点を当てて－, 第29回日本看護学会抄録集－看護教育－, 14, 1998.
  - ・小川妙子、横山京子、舟島なをみ：看護婦(士)の学位取得ニーズと自己教育性に関する研究－専門学校卒業者に焦点を当てて－, *日本看護科学会誌*, 18(3), 270-271, 1998.
  - ・望月美知代、舟島なをみ：専門学校を卒業した看護職が認識する学位取得の意味, 第29回日本看護学会抄録集－看護教育－, 15, 1998.
  - ・舟島なをみ、定廣和香子、横山京子：看護専門学校を卒業した看護婦・士の学位取得に関する研究－専門職的能力と学位取得ニーズの関連－, *千葉大学看護学部紀要*, 22, 1-5, 2000.
- 2)廣田登志子、横山京子、舟島なをみ：看護専門学校に所属する教員の学位取得に関する研究－学位取得ニーズの有無と個人特性の関係－, *看護教育学研究*, 9(1), 40-46, 2000.
  - 3)厚生省看護問題研究会監修：平成11年版 看護六法, 保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則 第7条, *新日本法規*, 36, 1999.
  - 4)兼子仁編：平成12年版 教育小六法, 学校教育法 第82条の4, *学陽書房*, 73, 2000.
  - 5)奥田真丈監修：現代学校教育大事典1, 「学位」の項, *ぎょうせい*, 326, 1993.

- 6)細谷俊夫他編：新教育学大事典,「学位」の項, 第一法規出版, 340, 1990.
- 7)Berelson, B. ; 稲葉三千男他訳：内容分析, みすず書房, 1957.
- 8)Scott, W.A. : Reliability of Content Analysis : The Case of Nominal Scale Coding, Public Opinion Quarterly, 19, 321-325, 1955.
- 9)前掲書2).
- 10)Lewis, J.A.M.:Barriers in obtaining a bachelor of science as perceived by nurses prepared below the baccalaureate level, UMI, B Dissertation Abstracts International, 50(5), 1854-b, 1989
- 11)山田律子, 北川公子, 中島紀恵子, 谷規久子：看護職の学位取得の実態と看護系大学への進学に対するニーズ, 第18回日本看護科学学会講演集, 394-395, 1998.
- 12)Cragg, B:Professional Resocialization of Post-RN Baccalaureate Students by Distance Education, Journal of Nursing Education, 30 (6), 256-260, 1991.
- 13)Lenburg,C:Preparation for professionalism through Regents external degrees, Nursing and Health care, 5, 319-325, 1983.
- 14)伊藤まゆみ, 新井蝶子：看護教育における遠隔授業の可能性について－看護系大学院における遠隔授業へのニーズと準備性に関する調査報告－, 第20回日本看護科学学会学術集会講演集, 137, 2000.
- 15)日本看護系大学協議会編：21世紀に向けての看護職の教育に関する声明, 1999.

### Abstract

The purpose of this research was to identify a field of discipline in a baccalaureate degree

and the reasons for choosing it by the diploma program nurse teachers who have needs for obtaining the degree. Questionnaires mailed to 2546 nurse teachers who worked in diploma programs in nursing and 1278 of them responded. The data of 309 nurse teachers who have needs for obtaining a baccalaureate degree were analyzed.

The results indicated that, (1)Sixty five(21.0 percent)of nurse teachers wanted to obtain a baccalaureate degree in nursing, 105(34.0 percent)of them wanted to obtain a different discipline from nursing, and 138(44.7 percent)of them wanted to obtain a degree in nursing if possible, and actually chose other than nursing. (2)The results of content analysis of the reasons for choosing a field of discipline in a baccalaureate degree emerged 18 categories from the data. (3)The most reasons were showed as follow; the teachers who have needs for obtaining a baccalaureate degree in nursing were <to be interested in nursing and to explore nursing speciality> , the teachers who have needs for obtaining a different discipline from nursing were <to acquire one's knowledge and expand one's view and to interact academically with persons whose speciality is in other field> , the teachers who have needs for obtaining a baccalaureate degree in nursing, but actually chose other than nursing were <the difficulty of holding the present job due to schooling, the responsibility of supporting family and the distance to the school location> .